

## 現・次期学習指導要領を踏まえた中学校の授業づくり

### Creating middle school classes based on MEXT's current and future Courses of Study

田 口 康 之

Yasuyuki TAGUCHI

#### I. 研究の目的

本研究は、現行中学校保健体育科学学習指導要領の解説に見られる目標・内容と新学習指導要領での特徴を整理し、前述の実現目標の定着に向け、球技領域のゴール型「バスケットボール」に焦点を当て、その授業づくりについて学習指導要領の特徴を把握し、授業を実践し、課題や成果を明確にするとともに、今後の授業づくりに資するものを得ようとするものである。

##### 【具体的研究目的】

- (1) 新学習指導要領及び保健体育科学学習指導要領解説に関わる目標・内容を整理する
- (2) 上記を踏まえ、球技領域の目標・内容の特徴を整理し、現行学習指導要領との相違点を整理する
- (3) その中で特徴的な内容について、授業を実践し、検証するとともに、授業づくりの要点や中学校保健体育科の課題を整理し、今後の授業づくりの提言を示す

#### II. 研究の方法

- (1) 研究の目的を達成するため、現行学習指導要

領及び解説と新学習指導要領及び解説の比較検討を関連文献の収集と整理によって進める。

- (2) (1) の中で、生徒たちの興味関心を引き出し、保健体育科の目標に準拠できる指導計画を作成し、その基に実際の中学校で授業を実践し、検証する。

#### III. 研究結果の概要

- (1) 現行学習指導要領の要点整理  
現行学習指導要領では、生徒に育成する力を  
①基礎的・基本的な知識・技能の習得  
②その習得したものを活用して思考力・判断力・表現力の育成  
③主体的に学習に取り組む力としている。
- (2) 新学習指導要領の改訂の趣旨  
①知識・技能の習得  
②未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力  
③学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等  
とする3つを柱として、現行学習指導要領には見られなかった3つの柱を達成するための方法

論として従来アクティブ・ラーニングと言われた「主体的・対話的で深い学び」を実践していくことと特徴が示された。

(3) 新学習指導要領「中学校保健体育科」での改訂の趣旨

上記の新学習指導要領の改訂の要点を受け、中学校保健体育科の、体育分野については、次のような改訂の趣旨が示された。

①学校教育法に示す資質・能力の育成を明確にするため、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視し、目標及び内容の構造の見直しを図る。

②「カリキュラム・マネジメント」の実現及び「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する観点から、発達の段階のまとまりを考慮し、指導内容の充実と保健分野との関連を図った指導の充実。

③運動やスポーツの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、性別や障害にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう指導内容の充実を図るとこと、その際、共生の視点を重視して改善を図る。

(4) 球技領域における現行学習指導要領と新学習指導要領との内容の特徴的な比較

上記の体育分野の改訂の要点を受け、球技領域の現行学習指導要領に対して、新学習指導要領で新たな内容が示された。

(5) (1)～(4) から新学習指導要領での中学校球技領域のねらいと特徴

①現行学習指導要領では、「技能」として位置づけられていた内容に、新たに加えて「知識及び技能」となり、運動を実践していくうえで、技能と知識は関連性をもたせ運動の行い方や体力の高め方の必要性や基本的な技能の定着を示している。

②何が身に付くのかを明確にし、運動の楽しさや喜びにつなげるよう示している。

③新たに「思考力・判断力・表現力」の育成が強く示され、運動観察の方法という言葉が付け加えられるとともに、方法論の中に「主体的・対話的で深い学び」が示された。このことについては、攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることが加えて示されている。

④さらに、3本目の柱となる「学びに向かう力、人間性等」では、作戦などについての話し合いに貢献する、一人一人の違いに応じたプレイ等を大切に、互いを助け合うなど「共生」を意識した内容を示している。

以上を授業づくりに生かしていくことで、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有しそれぞれの豊かなスポーツライフの基盤づくりに資することの必要性を示しているものと思われる。

【比較表 I】別添資料

(6) (1) から (5) を整理しての授業研究の成果と課題

①授業のねらい

本研究の一つである、現行及び新学習指導要領を整理し多様な楽しさや喜びを味わえる授業づくりを行った。現行・新学習指導要領でのねらいである「思考力・判断力・表現力の育成」、「技能・知識」の習得と活用、体力の向上を柱に指導計画を作成した。具体的には、チームを3人にし、全員がボールに触れ攻防に参加できるようにしゲーム主体型授業を実施。さらに作戦やチームや個人の技能、役割の課題・課題解決向けのタブレット、小黒板、作戦版を配布しての授業とした。

②検証授業の概要

- ・実施校：K市立第二中学校1年CD組37名
- ・日時：平成29年10月4日(水)5限
- ・テーマ：運動・スポーツの楽しさや喜びを育むための思考力・判断力・表現力

【比較表】表 I

現行学習指導要領	新学習指導要領
<p>(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにする。</p> <p>ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開すること</p> <p>イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること</p> <p>ウ ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開すること</p>	<p>球技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法等を理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開する。</p> <p>ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること</p> <p>イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること</p> <p>ウ ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防をすること</p>

- ・授業形態：3人制バスケットボールを実施し、生徒自身で課題に取り組み、ねらいに迫る。
- ・方法とねらい：3人制ルールであるハーフコートで実施し、攻撃の時間を12秒とする。このことで、一人一人の役割や運動量を高め、12秒の中で瞬時に動きの中での思考力・判断力・表現力を養うことをねらう。
- ・単元観：積極的に取り組むことでフェアプレイを守ること、役割を果たそうとすること、作戦等の話し合いに参加すること、バスケットを通して体力を高めること、課題を明確にし、取り組むことを学習する。

## 【指導案】別添

## ③本授業のまとめ

生徒のアンケート調査からバスケットが好きになった生徒が増えた。タブレットや小黒板を使用させ、主体的な話し合いや学びには結びついたと考える。しかし、研究者側の運動量調査から、教師の説明の時間を短くしているものの、話し合いの時間が8分となり、練習2分、ゲームの12分と合わせて15分は35分の中の48%となった。運動量は50%以上が望ましい論から

すると少なくなってしまう技能や体力の育成の面から考えると課題が残った。授業者の自評からも、思考力・判断力・表現力を培うことを考えると話し合いを中断できず練習量が減ってしまったと述べている。

## IV. ま と め

現行学習指導要領と新学習指導要領の整理から授業を実施することで、新学習指導要領に示された「知識・技能の習得」「未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等」を育成することを検討することで、中学校保健体育科領域の授業づくりについて課題を明確にすることができた。

特に、限られた単元指導時間、単位時間の中での保健体育科としての新学習指導要領が示す内容の編成・実施に向けての課題や責務について明確になったことで「運動することの楽しさや喜びを、運動量の確保の観点からも検討していく必要がある」と考える。

**【指導案】**

- ・単元 ゴール型「バスケットボール」、 ・10時間扱いの5時間目
- ・目標 思考力・判断力・表現力の育成  
バスケットボールの楽しさを味わう

時間	学習活動	教師の評価◇・支援○	評価規準
導入	挨拶、出欠確認 準備運動 前時、本日のねらいの確認  目標：チームや個人動きを分析し、攻防をする。	○タブレットでチームと自分たちの動きを分析し、動きや役割について瞬時に考え、判断し、行動することを伝える。 ○3人全員が発言していくことを伝える。	
展開	1 グループごとに、前時のタブレットを確認しながら、課題と本時の目標や練習方法を話し合う。 チームや自己の動きを客観的にみられるようにし、仲間の意見を聞き、自己の目標に生かせること 2 小黒板に作戦を立てる。 3 その作戦を試合で生かせるよう3人で練習する。 4 試合前に練習の状況と各グループの作戦を発表し合う。 5 試合 リーグ戦、3分間、12秒の攻防 試合のないチームが審判と映像を撮る。	○次の事を話し合わせる。 ①チームとしてねらいと異なるところ、かみ合わないことなどを見付ける。 ②個人の課題を見付ける。 ③いいところを見付ける。 ④これからのねらいと練習方法を考える。 使用教材：タブレット 小黒板 作戦版 ○話がまとまらない、話し合いができていないチームへ助言を行う。 ◇チームや個人の課題に適した練習できる。	<b>【思考・判断】</b> チームや個人の課題を話し合い、見付けることができている。 個人やチームの特徴を生かした作戦を立てることができる。  <b>【学びに向かう人間性】</b> バスケットボールの楽しさや喜びが味わうことができている。 仲間と共に運動し互いを認めることができる。  <b>【知識・技能】</b> 今持っている知識や技能を發揮して練習やゲームを行っている。
まとめ	1 チームや自己の振り返り、発表 2 次回の連絡	○本時の指導と講評 ○生徒の振り返りの発表	<b>【思考力・判断力・表現力】</b> チームや個人を振り返ることができ、発表ができる。

**参考文献**

- 1) 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策などについて（答申）」平成2年12月21日 中央教育審議会—
- 2) 中学校学習指導要領 文部科学省—平成20年3月告示—
- 3) 中学校学習指導要領解説保健体育編 文部科学省—平成20年9月—
- 4) 中学校学習指導要領 文部科学省—平成29年3月告示—
- 5) 中学校学習指導要領解説保健体育編 文部科学省—平成29年7月—
- 6) 保健体育科教育法 大修館 杉山重利・高橋建夫・園山和夫共著 平成25年4月
- 7) 図説新中学校体育実技 大日本図書 監修 細江文利 平成29年3月
- 8) 体育科教育「学習指導要領の改訂」新時代の体育を求めて 大修館